

秋から冬のEVENTS

秋のおさらい会 楽しくアンサンブル

大人のための基礎音楽講座 クリスマスコンサート

ソルフェージュスクール新聞

秋冬号

2019年3月14日発行
編集人 吉村隆子
豊島区目白 4-23-10
(Tel) 03-3953-8517

公益財団法人
ソルフェージュスクール

秋のおさらい会

2018年10月28日(日)

前半は、初めておさらい会を経験される方もまじえて日々の努力の成果が表われた良い演奏でした。後半になりますと、先生と一緒にアンサンブルをするプログラムがふえて、ソルフェージュスクールならではの音楽づくりで盛り上がりました。先生の息づかいに合わせて豊かな表現ができていたと感心いたしました。

糸井みちよ (講師)

初めてのおさらい会

娘がヴァイオリンを習いはじめて1年半、今回初めておさらい会に出させていただけました。おさらい会に出ると決まると、娘は弟と一緒に台の上立って発表会ごっこをはじめたり、おさらい会の後に「あのね、弓が真っ直ぐになるように気をつけなきゃって思ってから弾きはじめてたんだよ」と話してくれたりと、親が思っている以上に娘なりの本番へのアプローチの仕方があるのだなと気づかされました。

娘のことをわかっているようでわからないというのが育児の本音でして、私にとっても娘の姿を少し離れて客観的に見ることでできる機会となり、おさらい会は親子にとって大切な通過点と感じました。普段はヴァイオリンだけの練習ですが、津布楽先生にピアノの伴奏をしていただいた瞬間、娘の演奏の仕方や音色が僅かに変化したことや、本番では同年代の生徒さんの演奏する姿を見たり、クラリネットなど見慣れない楽器の演奏を聴くことができたのも、おさらい会ならではの経験でした。

長い視点で娘に対する音楽を通じた教育を考えた時に、ソルフェージュスクールにはたくさんの仕掛けがあり、これほど充実した音楽教室は他にあるのだろうかと常々思います。たくさんの先生や生徒さんと触れ合う機会があったり、お歌をうたったり、アンサンブルをしたり、色々な楽器の音色に触れたり・・・そういった事がどれだけ大事であるのか、娘が気がつくのは随分と先の話になるかもしれません。これからも長い時間をかけて少しずつ成長していく娘の姿を、その時々のおさらい会を通じて見守っていかれたらと思うばかりです。

斎藤 桂子 (斎藤勲 (幼))
斎藤千嘉 (幼) 母)



プログラム

- | | |
|--|---|
| 1 Pf ギロック：小犬 | 7 Pf フンメル：エコセーズ、 バッハ：メヌエット |
| 2 Vn ドイツ民謡：クリスマスの歌、 鈴木慎一：アレグロ
(Pf 伴奏：津布楽先生) | 8 Pf ギロック：パリの大通りで (Pf 伴奏：江原先生) |
| 3 Pf ごあき：ソルフェージュとピアノ、 グローバー：うさぎさん | 9 Vn バッハ：コンチェルト 1 番第 1 楽章 (Pf 伴奏：津布楽先生) |
| 4 Vn 鈴木慎一：キラキラ星変奏曲
(Pf 伴奏：糸井先生) | 10 Rec ラモー：タンブーラン、 バッハ：メヌエット (Pf 伴奏：江原先生) |
| 5 Pf メトードローズ：バラ色のメヌエット、 ああかわいい | 11 Vn ヘンデル：ヴァイオリンソナタ 3 番第 2 楽章 (Pf 伴奏：込山先生) |
| 6 Pf カバレフスキー：ポルカ、 ブルグミュラー：進歩 | 12 Cl ボンサー：ヴァレリー (2nd Cl 古澤先生、Pf 伴奏 込山先生) |

楽しくアンサンブル

2018年12月23日(日)

十二月二十三日、楽しくアンサンブルが行なわれました。参加者は、ピアノ二人、ヴァイオリン五人、リコーダー一人、クラリネット一人の計九名。このところ小学生が少なかったのですが、誘い合せて三人、残念ながら一人は熱で来られなかったのですが、楽しそうに参加してくれました。

あまり一緒に組む機会の少ない楽器とのアンサンブルの組もあり、自分の楽器とは違った息づかいや、強弱のつけ方など、色々発見もありました。全体的に、和気あいあいとした雰囲気でしたが、特に大人の参加者からは勉強したいという気持ちがとても伝わってきました。

アンサンブルをするには、その曲に対して同じ様な認識を持つことが必要で、そのために、ソルフェージュで音楽の基礎を学び、耳を育て、考える力をつけていくことの大切さをつくづく感じます。それでも、アンサンブルは楽しいので、また次回どなたでも、参加お待ちしております。

妹尾美紀子(講師)



アンサンブルは語り合い

「何事も経験よ」毎週ソルフェージュで世話になっていく大村先生よりお勧めがあり、久しぶりにアンサンブル大会に参加した。楽器はヴァイオリンである。先生方が事前に曲と編成を調整してくださり、休日一日、午前と午後二コマずつ受講する形となった。

ひとりで弾く時とは違い、合わせは自分の都合で曲を止められない。ちょっと難所があるところとつまづいている間に音楽の流れから取り残されてしまい、「落ちて」しまう。たちどころに「おやつ？」という空気が広がってゆくを感じた。練習不足観面(てきめん)。皆さんごめんなさい。そんな自分に辛抱強く寄り添ってください、一緒に生きていただいた方々には本当に感謝である。

さて、今回は舞曲が多かった。メヌエットとブーレ。吉村先生はそれぞれの特徴と小節を越えたフレーズの取り方について教えてくださいました。最初はただ三拍子、二拍子と拍を数えて音を追うのに必死だったが、急に視界が開けて、曲全体を俯瞰(ふかん)して見られるようになった。また、何気なく弾いていた音型が、スコアで見ると実はその後音を変えて別の楽器へと引き継がれていることも指摘があり、そうした点を意識することで、みんなでひとつの曲を創り上げていくことを実感し、何だか嬉しかった。参加者一同で昼食の後、中世の音楽を初見で読み、合わせていった。素朴な調べを

二小節単位でリピートしてゆく。はじめは強く、そして次は弱く、このパターンを守りながら、曲は唐草模様のように永遠に続いてゆくかのようだ。

外は吹雪、みんなで暖炉を囲みながら：こんな情景が頭に浮かんだ。

「アンサンブルは語り合いだな」と思った。

島 宗一郎 (スクール生徒)



久しぶりの参加

私は、お友達にさそわれて、久しぶりに楽しくアンサンブルに参加しました。小学生は二人しかいなくて、ほとんど大人の人数だったので、最初は大変きん張りました。

けれど、みんなとひいているうちに、楽しくなりました。一時間目は、ピアノとバイオリンで、「金婚式」を演奏しました。私はバイオリンをひきました。二時間目は、バイオリンと、リコーダーでいろいろな曲をひきました。上手くひけるか心配でした。ちょっとまちがえてしまったけれど、きれいにひけてよかったです。お弁当は、みんなで円になって食べました。みんなで食べたので、とてもおいしかったです。また今度も、楽しくアンサンブルに参加したいです。

堀山実穂(スクール小五)

大人のための基礎音楽講座

2018年11月12月全5回

年と共に、目も足も頭もおとろえていくのですが、バイオリンは練習をすると、ほんのわずかでも前に進んでいく、それを励みに弾いている日々です。自分の弱点はリズム感に乏しいことと自覚し、今回「大人のための基礎音楽講座」に参加しました。たまたまですが、受講生は一人のみ、マンツーマンどころか、毎回二人の先生に教えていただき、ゼいたくの極みの五回シリーズでした。アウフタクトやシンクペーションなどのウィークポイントの実践だけでなく、一人ということを好機に、調性の疑問点から平均律・純正律の話し、固定・移動ドや音名の読み方の功罪など、個人的にもやもやしていたことも教えていただき、大変感謝しております。また、「音符があって唱があるのではなく、唱の(再現する)ために音符があり、だからこそ記譜法を知って唱い、そして弾く」ことの大切さを実感できました。最終回には、あつかましくも込山先生のピアノでエックレスのソナタを弾き、吉村先生からは、フレーズのみならず小節の中(二つの音でも)の「音の重さ」という貴重なアドバイスをいただき、音楽の奥深さを感じさせられました。

「この勢いで！」という自分勝手な思い込みで、12月の「楽しくアンサンブル」も参加申込してしまいました。

今度は、他の声部との調和や対話を楽しめれば、と思っております。

岡田和紀(受講生)

クリスマスコンサート

2018年12月16日(日)

年末恒例のクリスマスコンサートは、あいにくの寒空にもかかわらず大勢のお客様にお越しいただき、人々の熱気に包まれた温かい雰囲気の中で行われました。

プログラム前半は管楽器とピアノによるアンサンブル。オープニングのスタンフォードは、クラリネットが奏でる冒頭の牧歌的なメロディーが心地よく響いてきて、クリスマスにふさわしい幕開けとなりました。2曲目のドゥメルスマンは、フルートパートの楽譜が音符で真っ黒というほど音の多い曲で、フルートの技巧的な側面を堪能できたのではないかと思います。続いてのビゼーは、フルートの名曲として広く知られているポピュラーな曲です。前半最後のプログラムは、フォーレのピアノ連弾曲からの編曲作品で、楽器が変わると雰囲気もかわり、原曲とは違った味わいがありました。

プログラム後半はうたとコーラス。うたは国内外の名歌から5曲選びましたが、曲を決めたプロセスを少しお話しします。伴奏者である筆者(林)が以前、江原先生と「荒城の月」を他所で演奏したことがあり、その時の朗々

とした歌いっぷりに感動して、これはソルフェージュクールのみなさまにもいつか聴いていただきたいという思いがあり、今回実現の運びとなりました。そしてこの曲を軸に、全体の調和、調性、クリスマスという時節柄などを考慮にいれ、他の4曲を組み入れました。ちなみに「ケ・セラ・セラ、なるようになるさ」という歌詞は、江原先生のお人柄にもよくマッチしていたのではないのでしょうか!?

プログラム最後はコーラスによる讃美歌とキャロルで、クリスマスの日を迎えた喜びが、ア・カペラの合唱で表現豊かに歌われました。アンコールの「ホワイト・クリスマス」では、聴衆のどこからか、男声の素敵な英語の歌声も聞こえてきて、会場はすっかり和やかなムードに。。そしてコンサートの最後は、会場のみなさまと共に讃美歌の大合唱となりましたが、そのホールいっぱいの響きの素晴らしかったこと!!! 聴衆のみなさまの盛大な美声に包まれて、無事にコンサートを終えることができましたことを、心より感謝申し上げます。

林さち子(講師)

クリスマスコンサートに出演して

クリスマスコンサートに、レ・グルヌイユの一員として出演させていただきました。

改めて振り返ってみますと、我が家のスクール生活のはじまりは娘が幼稚園年中のころでした。三階ホールの贅沢な空間で吉村隆子先生のリトミックに目を輝かせて走り廻る娘。子どもが心地良い居場所を求める五感センサーは、何と敏感なのでしょう! そして人目もはばからない表現の何と無心で素直なことか!! 早速翌週から通わせていただくようになりました。その後、引き寄せられるように家族皆々と生徒に加えていただきました。

レ・グルヌイユのレッスンもそのホールで行われます。月一回集まるカエルの大家族が、江原先生の魔法のようなリードに導かれ、あれ?いつの間にかこーんなにハードルが高くなってた!?!と気づいた時に苦笑が漏れたり、とても楽しいレッスンです。

コンサート当日、いつものホール。でもそこに、いざ本番として立ってみると、満員の客席、その席の近いこと、…瞬時にいつも緊張し、葛藤しているのは私だけですか? 「カエル」の私が学ぶべきはまず、「テタール(おたまじゃくし)」や「ウフ(たまご)」の無心さかな?と思ったりします。子どもから大人まで学ぶソルフェージュスクールでは、垣根なくお互いが刺激し合う場面がたくさんあります。子どものピュアで繊細な感覚に習いつつ、適度な緊張感を持って冷静に表現を楽しめるカエルに早くなりたい!

最後、会場の皆さんと一体になってのホワイトクリスマス大合唱で、舞台がないホールで音楽を楽しむ良さも、演奏する側の難しさも同時に感じる演奏会でした。

さあ、年号の節目、娘が社会に出る今年はどうな曲に出会えるのでしょうか。とても楽しみです。 坂本多佳子(レ・グルヌイユ生徒)

PROGRAM

◇ 第1部 ◇

Ch.V. スタンフォード：三つの間奏曲
No.1 Andante espressivo No.2 Allegro agitato
No.3 Allegretto scherzand

♪古澤裕治 Cl・加藤恵理 Pf

ドゥメルスマン：歌劇「オペロン」の主題による
グランドファンタジー op.52

ビゼー：「アルルの女」第2組曲 メヌエット
♪山崎孝子 Fl・込山今日子 Pf

フォーレ：組曲「ドリー」op. 5 6より
1 子守歌 2 ミ・ア・ウ 3 ドリーの庭 6 スペインの踊り
♪山崎孝子 Fl・古澤裕治 Cl・込山今日子 Pf

◇ 第2部 ◇

ジェイ・リビングストン：ケ・セラ・セラ

作者不詳：冬景色

瀧廉太郎：荒城の月

エンニオ・モリコーネ：Nella Fantasia

マックス・レーガー：マリアの子守歌

♪江原陽子 Vo・林さち子 Pf

讃美歌：神のみ子は

17世紀のフランスの歌：DING DONG!

MERRILY ON HIGH

讃美歌：きよしこの夜

♪レ・グルヌイユ Chor

◇ 最後に ◇

皆さまと一緒に、クリスマスの歌を歌いましょう♪

「怒らずに子どもの力を引き出す 声かけて何だろう?」

2018年9月28日(金)
研究会
加藤恵理(講師)

子どもは無限の可能性を秘めています

子どもは無限の可能性を秘めています。どんな人になって欲しいかと聞かれれば、たいいていの親は、優しく、思いやりがあつて、やる気があり、自分から進んで行動できる人に…などと答えるでしょう。でもはじめからそんな子どもはいなくて、やりたいこと興味あることがたくさんあつて落ち着きがなく、でも一つのこと驚くほど集中してみたりするものです。幼児期の体験の中で、さまざまなことに挑戦して失敗するという経験が実はとても大切なのです。でも、実際には忙しい大人が暮らしやすいよう合理的に、何かを始める結果をすぐに求められてしまうのが今の子どもたち、そんな気がします。いつも大人に正しい答えがあつて、そこに近づくように頑張る。頑張れない子は怒られる。そんな構図があるのではないのでしょうか。



「叱らずに問いかける」



私の子どもが小学生の時、サッカーの試合に行くと、いつも怒つてばかりの監督のいるチームとまったく怒らず柔らかい言葉で接する監督のいるチームとがありました。怒る監督は指示も多く、子どももとてもピリピリして、一方怒らない監督は点を入れられても「次、頑張ろう!」と前向きで、子どもたちのびのびと主体的にプレーをしています。大人の接し方、声のかけ方一つでこんなに子どもは変わるんだと思えました。サッカーの指導者である池上正さんの「叱らずに問いかける」という著書を読み、これはサッカーだけの話ではなく、子育て全体、そしてソルフェージュスクールの教え方にも通ずると思いました。

「そういえば自分がスクールの生徒だったとき怒られたことがなかったなあ」

当たり前のことですが、怒られないために行動するのと、自分が楽しいから行動するのでは全然違います。「怒らずに子どもの力を引き出す声かけて何だろう?」「そういえば自分がスクールの生徒だったとき怒られたことがなかったなあ」そんなことを考えていたところ、今回の研究会のお話があり、先生方にも伺つてみたいと思つたのです。

研究会当日は池上正さんの著書を紹介しながら、実際の先生方の日頃のレッスンの様子を報告しあい、教える上で先生方が大事にしていらつしやること、これは言つてはいけないと思つている言葉などを紹介していただきました。もちろん怒つてばかりの先生はいらつしやらなかったのですが、楽しい中でも厳しさは必要であると思いはどの先生も同じで、怒りたくなつた時の秘密の対処法なども教えていただき、とても有意義な時をもつことができました。ソルフェージュスクールでも安心できるホールで「くろちゃん」や「しろちゃん」を歩くことからはじまつて、少しずつ楽譜を読む力を養い、自分の音を聴き、人の音を聴いて合わせることを丁寧に積み重ねています。この経験が音楽だけでなく、隠れた子ども力をひきだすと信じて、池上さんやそれぞれの先生方の知恵を日々の指導に活かしていきたいと思つました。

音あそび
しよう!!



テタール、ウフ
ソルフェージュ&ABC



[2019年3月から8月までの行事]

- <春のおさらい会> 3月21日
- <講習会>
 - 3月30日,31日 春のミュージックキャンプ
 - 7月21日 楽しくアンサンブル
 - 8月6日 亀井由紀子特別公開レッスン
 - 8日~11日 夏季合宿
- <ウフ、レ・テタール、ソルフェージュ&ABC>
 - 4月21日 6月2日 7月28日
- <コンサート>
 - 5月12日 春のコンサート
 - 6月30日 ソルフェージュスクール演奏会

〈編集後記〉

音楽で満たされる生徒のみなさんの声、そして講師の指導姿勢、講師自身が演奏で示す音楽の喜びをお伝えてきていければ幸いです。(了)

* ホームページ、Facebook に注目ください。



Homepage



facebook